

アル・アクサ洪水第484日目：第2段階協議開始へ | ヨルダン川西岸での虐殺 | ハマス司令官、一命を取り留める

The Palestine Chronicle、2015年2月1日、脇浜義明訳 *脚注は訳注



ラファ検問所は、負傷したパレスチナの子どものための出国を許可するため、数ヶ月ぶりに開通した。(Photo: via QNN)

主要事項

- * 合意の一部として3人にイスラエル人質が解放され、数十人のパレスチナ人拘留者が釈放される予定である。
- * ラファ検問所が数か月ぶりに開かれ、子どもを含む50人の負傷者がエジプトで治療を受けるためにガザを出ることができる。

最新情報

2月2日 9:17am (パレスチナ時間)

* ガザ市民防衛団報道官マハムード・バサル (パレスチナ・メディアでの報道)：ガザ回廊は数十万人の住民が家も生活必需品もない状態なので、ひどい人道的危機にある。テントや壊れやすい小屋で暮らしているので、厳しい天候になると命の危険に見舞われる。イスラエルの攻撃跡の瓦礫が道路上に散らばり、崩れた建物の中には人間がまだ埋もれている。我々は手遅れにならないうちの瓦礫の下から人間を掘り出す作業を手伝ってくれと、国際機関と人権団体に呼び掛けている。

* パレスチナ・メディア：イスラエル占領軍は西岸地区トゥーバの南のタームーンのアル・ジャバル地区でパレスチナ人家族に家を捨てて移動しろと強制している。

* アル・ジャジーラ：イスラエル戦車がフィラデルフィ回廊からラファ市南部のパレスチナ人に威嚇射撃をしたと伝えられる。

* アル・ジャジーラ：イスラエルの数基の無人機がガザ中部のヌセイラト難民キャンプ北西部のアル・ラシド通りを走行中の自動車に向けてミサイル二発を発射したと伝えられる。

*イスラエル・メディア：ネタニヤフ首相は間もなく行われるトランプ米大統領との会談で、イスラエルが直面している問題、ハマスの打倒、人質釈放について協議する。

2月2日 3:18am

*パレスチナ・メディア：イスラエル占領軍は西岸地区北部のトゥルカルム地区の町アティールを攻撃したと伝えられる。

2月2日 12:46am

*アクションス（イスラエル政府高官の話として）：ネタニヤフ首相はイスラエル交渉団との会見を、米大統領との協議がすむまで先送りすると決定して、キャンセルした。この決定は、交渉合意の第二段階の実施を遅らせることになる、モサドとシン・ベトの長官が警告したと伝えられる。両長官は、交渉はカタールとエジプトの仲介で行われており、米政府の仲介ではないと言った。ネタニヤフの決定のために交渉の第二段階の進展に懸念が生じた。それが現在進行中の第一段階の実施にマイナスの影響を及ぼさないことが望まれる。

2月1日 9:50pm

*アクションス：米政府高官がアクションスに、トランプ大統領がガザのパレスチナ人をヨルダンとエジプトに強制移転させると発言したのは、ガザが大規模に破壊されており、それを再建する間の暫定措置としてだ、語った。

*ネタニヤフ首相府：ネタニヤフ首相はイスラエル軍参謀総長を3月にヘルジ・ハレヴィからエイヤル・ザミールに変えると発表した。

*アル・ジャジーラ：西岸地区ジェニンの南の町アーラバでパレスチナ・レジスタンス戦士が侵入するイスラエル軍に仕掛け爆弾を破裂させ、その後銃撃戦を行った。

*アル・ジャジーラ：西岸地区北部のカルキリアで釈放されたパレスチナ人囚人アリ・ハッサンを歓迎する群衆に、イスラエル無人機が催涙ガス爆弾を落とした。

*アル・クッズ旅団：我が旅団のジェニン大隊は、アル・カッサム旅団と「復讐と解放の若者たち」(Youth of Revenge and Liberation)¹といっしょに、ジェニンの東部で10人からなるイスラエル軍歩兵部隊を待ち伏せ攻撃して、死傷させた。

*ワシントン・ポスト：EUはパレスチナ自治政府職員と協力して500人の負傷者をガザから運び出したと、ヨーロッパ人外交官がワシントン・ポストに語った。

2月1日 7:38pm

*ユーロ地中海人権モニター：釈放されたパレスチナ人が健康を害しているのは収監中の虐待を物語っている。おそらく飢餓拷問によってガリガリに痩せている人が多く、すぐに病院へ運んで応急治療した。これはイスラエル刑務所が拷問センターとなっていることを証明している。事実、多くの証言でパレスチナ人囚人に対する報復的拷問が行われていることが明らかになっている。

*アル・ジャジーラ：イスラエル・カッツ国防大臣は、元アル・アクサ殉教者旅団の指導者で、この度釈放されたザカリア・ズベイディに、「一つでも間違いを起したら刑務所に逆戻りだぞ」と言って、脅した。

*イスラエル軍ラジオ放送：今日のハマスのによるイスラエル人質の釈放を見ると、ハマスの組織力と統制力の強さが感じられた。見事に訓練され組織されている様子が見られた。

*パレスチナ・メディア：西岸地区北部のトゥルカルム難民キャンプでワヒード・ザバグ・アブ・マディがイスラエル軍の狙撃兵によって殺害された。

*パレスチナ・メディア：ジェニン東部でアル・サアディ家付近をイスラエルのドローンが着弾し、パレスチナ人1人が死亡し、何人かが負傷した。

*ガザ市民防衛団：ガザ市民防衛団の報道官は人道的危機を訴え、国際機関に瓦礫の中に埋まっている人の救出への協力を訴えた。

*ハアレツ：赤十字社は釈放されるパレスチナ囚人へのイスラエルの扱いに怒りを表明した。両手を頭上に挙げさせて手錠をかけ、これ見よがしにプレスレット²をかけていた。軍は釈放最後の瞬間までそうすると言った。

¹ アル・アクサ旅団の一大隊。

² プレスレットにはトーラーの「永遠なる民族は忘れない。敵を追いかけ、必ず捕らえるであろう」という詩句が刻まれていた。囚人の一人モハメド・アリ・アリダはプレスレットを引きちぎった。

*アラブ諸国共同声明：カタール、エジプト、ヨルダン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、パレスチナ自治政府、アラブ連盟はパレスチナ人の強制追放を拒否し、二国家解決案の支持を再確認する共同声明を出した。

*パレスチナ囚人クラブ：パレスチナ囚人クラブは、釈放を祝賀すると釈放された囚人とその家族を殺害を含めて虐待するイスラエルを非難した。

*「イスラエル我が家」党：極右政党「イスラエル我が家」のアヴィグドール・リーベルマン党首は、政府に2023年10月7日事件の調査を要求した。「災難」の繰り返しを防ぐ教訓を学ぶべきだと言って。

2月1日 1:10 pm

*アル・ジャジーラ：患者の第一陣が、WHO の監視のもとで、ラファ検問所を通過して治療を受けるためにガザからエジプトへ入った。

*CBS（元イスラエル交渉団員の言葉として）：イスラエルは戦争終結とかガザからの撤退を論じていなかった。ネタニヤフ首相はトランプ米大統領が停戦ディールをまとめる決意であるならば、それに反対しなかっただけだ。

*アル・ジャジーラ：50人のがん患者と心臓病患者を乗せたバスがラファ検問所へ向かった。そこからエジプトへ入る予定だ。

2月1日 12:52 pm

*パレスチナ・メディア：釈放されたパレスチナ人囚人のうち何人かは、ひどい健康状態のため、西岸地区のラマッラーの病院へ移送されている。

*イスラエル軍報道官：カッサム旅団の沿岸旅団指揮官のハイサム・アル・ハワジリの殺害に成功したという情報は間違いであったことをイスラエル軍報道官が認めた。何故なら、ガザの港でイスラエル人質キース・シーゲルの引き渡しするときアル・ハワジリが姿を見せていたからである。

*アル・ジャジーラ：イスラエル軍が歓迎や祝福をするなど警告しているにもかかわらず、西岸地区のラマッラーでは釈放者を歓迎しようと数百人が集まった。釈放者を積んだバス数台がガザからカラム・アブ・サレム（ケレム・シャローム）検問所へ到着する予定である。

*トルコのアナドル通信社：赤十字のバスが占領下の西岸地区ラマッラーの西にあるオフエル軍事刑務所に着いた。4回目の捕虜交換の一環として32人のパレスチナ人拘留者の釈放の準備のためである。

*チャンネル12：ハマスは人質引き渡しの場所を一回一回指定する。ジャバリア、故ハマス指導者シンワールの家、アル・シャティ難民キャンプ、ガザ港を指定したのは単なる気まぐれではない。イスラエルの猛攻撃にもかかわらず、それらの地区ではハマスの管轄がしっかりしていることを表している。

*アナドル通信社：イスラエルは4回目の捕虜交換の一環としてオフエル軍事刑務所からパレスチナ囚人を釈放しなければならないが、それに先立ちオフエル刑務所近くのベイトゥニアをイスラエル軍が攻撃した。

*アル・クッズ旅団ジェニン大隊：我々の戦士はジェニンのアル・アラマニアとアル・ナシーム地区でイスラエル軍と激しい戦闘を行い、敵軍に死傷者が出たことを確認した。

*ハマスの声明：我々は、米国籍のイスラエル人を含む3人の人質を、イスラエル刑務所で拘留されている我々の英雄たちの釈放と交換に解放した。イスラエル軍の攻撃という厳しい条件下で、カッサム旅団は種々の病気になったイスラエル人質に必要な治療を行った。

2月1日 11:21 am

*アル・ジャジーラ：本日ラファ検問所を超えてエジプト入りすることになっている病院入院患者や負傷者がバスや救急車で出発している。これは停戦合意の一環で、イスラエル軍がラファ検問所から撤退し、病人や怪我人が治療を受けるためにエジプトへ入ることを認めることである。記者の報告によると、子どもを含む50人の患者や負傷者が、1人につき3人の付き添いととも、今日出発した。

*ハマス高官サミー・アブ・ズフリーの声明（アル・ジャジーラによる報道）：ガザのパレスチナ人を外国へ移動させると何度も繰り返す米国の発表は馬鹿げて無意味なものである。米政府はガザ再建の間という見せかけで、強制追放を主張している。それはシオニストの民族浄化という犯罪への共犯行為である。イスラエルが戦争暴力で実現できなかったことを、米国は政治的駆け引きでやろうとしているのだ。それは中東に混乱と緊張を増大させるだけだ。

*アル・ジャジーラ：カッサム旅団は三人目の人質、キース・シュモネル・シーガルという名の米国籍の人質をガザ港で赤十字社に渡した。報道記者は、カッサム旅団が彼と、2023年11月の捕虜交換で解放した彼の妻のための贈り物を与えたと書いている。

*アル・ジャジーラ：チャンネル12はアル・カッサム旅団の「影の部隊」³が人質のヤルデン・ビバスとオフエル・カルデロンを、2013年10月7日に奪ったイスラエル軍車両でハーン・ユニスまで運んで、赤十字社に渡したと伝えた。

*アル・ジャジーラ：イスラエル軍は人質のヤルデン・ビバスとオフエル・カルデロンを受け取ったことを確認し、健康診断をするためにイスラエルへ向かったと述べた。また、まもなくガザ港で解放される予定のキース・シーガルを受け取る用意をしていると言った。

*アル・ジャジーラ：カッサム旅団は米国籍の人質キース・シュモネル・シーガルをガザ港で引き渡す最終の手はずを整えた。この引き渡しには、イスラエルによって暗殺されたと伝えられていたカッサム旅団の指揮官アブ・オマール・アル・ハワジリが立ち会っていると、報道記者が伝えた。

*アル・ジャジーラ：カッサム旅団はヤルデン・ビバスとオフエル・カルデロンの二人の人質をハーン・ユニスで赤十字社に引き渡した。

*アル・ジャジーラ：カッサム旅団の車両の一団がハーン・ユニスに到着して二人の人質の引き渡しの準備を始めた。

*アル・ジャジーラ：赤十字社の車両が、捕虜交換の4番目にあたる2人の人質を受け取るために、ハーン・ユニスに到着した。

*アル・ジャジーラ：イスラエル人人質の解放はハーン・ユニスとガザ港の二か所で行われる。カッサム旅団はキース・シュモネル・シーガルをガザ港でヤルデン・ビバスとオフエル・カルデロンをハーン・ユニスで引き渡す舞台設計を整えている。

*アル・ジャジーラ：カッサム旅団は今日捕虜交換の4番目の一環としてイスラエル人人質を手渡す予定で、ハーン・ユニスとガザ港へ人員を展開している。彼らは故ムハンマド・アッデイフ指導者を偲ぶ詠唱をしながら作業をした。

*Wafa:イスラエル軍は今日早朝に西岸地区のカルキリア市を攻撃し、4人のパレスチナ人を逮捕した。

*アル・ジャジーラ：イスラエル刑務所局は停戦及び捕虜交換合意の一環としてパレスチナ人拘留者を釈放する準備にかかった。抑留者はオフエル刑務所から西岸地区の釈放地点とケレム・シャローム検問所へ運ばれる。

*アル・ジャジーラ：AFPは今日合意の捕虜交換4番目の後、ラファ検問所が開かれる予定であることを確認した。ラファ検問所は昨年5月にイスラエル軍が占領してから8か月間閉じられたままだった。消息筋によると停戦協定の一環として病人と怪我人がガザを出てエジプトで治療を受けるための措置だという。

³ 2006年ハマスがイスラエル兵ギラド・シャリートを捕虜にしたとき、シャリートを保護するために作った部隊。敵の捕虜を尊厳と敬意をもって扱う部隊だと説明されている。